

C001		マンダラと梵字4A	
英名科目名	Sanskrit Calligraphy and Mandala4A		
大学名	種智院大学		
連絡先	種智院大学教務課 TEL 075-604-5600 FAX 075-604-5610		
担当教員	児玉 義隆(人文学部仏教学科教授) 今井 淨圓(人文学部仏教学科教授)		
開講期間	2021年04月13日(火)～2021年07月27日(火) 6講時 18時10分～19時40分(毎週火曜日)		
開講形態	前期・春学期	開講曜日・講時	火曜日 6講時
単位数	2	履修年次	1年次以上
会場	キャンパスプラザ京都		
授業定員	20		
単位互換生定員	20	京カレッジ生定員	20
試験・評価方法	平常点(30%)：主に出席状況によって評価する。 ただし、遅刻等の受講態度不良は減点の理由になる。 定期試験(70%)：作品提出により評価する。		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料	京カレッジ生：聴講生22,000円、科目等履修生26,000円 別途、科目数を問わず登録料5,000円(年間) 単位互換履修生：不要		
別途負担費用	約4,000円(道具・教材費・教科書)、道具・教科書を持っている人は約1,000円		
その他特記事項	<p>【事前・事後学習】 あらかじめ、授業で扱う人名・地名・仏教要語などを辞書や辞典で調べ、予習したことをノートにまとめること。授業時間以外でも筆を持って実修にはげむこと。</p> <p>【課題に対するフィードバック】 フィードバックとして、提出された小レポートに対してコメントをつけて返します。あるいは小レポートを回収後、解説を行います。梵字実修に入れば、それぞれの作品を添削して指導します。</p>		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
<p>【講義概要】 梵字は弘法大師空海によって、わが国にもたらされて以降、卒塔婆や石塔、あるいはマンダラなどのさまざまな形で伝承されてきた。本講義では、古代インドの文字である梵字の歴史やその書き方、読み方の基本を学ぶ。本年は特に観法に用いられる本尊について、種々の作例をあげながら、その教理的な背景を解説する。さらに受講者自身にも梵字の作品を筆写してもらおう。 授業においては、梵字の書き方を児玉が、作例に関する講義を今井が担当して行う。昨年度までに「マンダラと梵字」を受講したことがある方も、本年度の講義を受講することができる。筆や教科書を持っている受講生は、材料費だけの負担になる。</p> <p>【到達目標】 梵字を正しい筆法で、朴筆(刷毛書き)を使って書くことができる。 梵字やマンダラについて関心を持ち、自ら進んでその内容を理解して、人に伝えることができる。</p>			
講義スケジュール			
<p>[実習](児玉義隆 担当)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 梵字の歴史について 2. 摩多(母音)体文(子音)の解説 3. 摩多体文の書法1 4. 摩多体文の書法2 5. 切継(きりつぎ)字の書法(子音字の結合) 6～9. このマンダラに用いられる種子の書き方 10～12. 作品制作とまとめ <p>[講義](今井淨圓 担当)</p>			

1. 密教の歴史
2. マンダラの語源と意味
3. 諸尊法と別尊マンダラについて
4. 八字文殊種子曼荼羅

教科書	児玉義隆『梵字必携』朱鷺書房 1991年
参考書	児玉義隆『梵字で見る密教 その教え・意味・書き方』大法輪閣 2002年 児玉義隆『梵字の書法 - 真言密教・ほとけの文字 -』大法輪閣 2005年 種智院大学『新梵字大鑑』法蔵館 2015年